

(2) 水の里の旅コンテスト 2010 の全応募企画の活用方策の検討

水源地域や水文化ならではの魅力や特色を活かした着地型旅行企画を造成する各地域の参考に資することを目的とした活用方策を検討した。検討においては、水の里の旅コンテスト 2010 の評価コメントの整理、着地型旅行の専門家による評価コメント、「“水のめぐみ”とふれあう水の里の旅コンテスト 2010」の全応募企画の分析・整理結果等を踏まえて検討した。

①着地型旅行企画の造成

選考委員会で検討した水の里の旅コンテスト 2010 の受賞企画の選定理由、評価コメントを踏まえ、各地域の関係者が、水源地域や水文化（水の里）を活かした着地型旅行企画の造成する際の参考点を整理した。

◆水の里の地域の考え方について

- ・水の里の旅は、地域づくりとしての性質も考慮し、水の里として「水源地域」、「過疎地域」などの限界集落などを抱える地域も考慮した方が好ましい。

◆企画内容の要素について

- ・水の里の旅の要素において、一般的な観光地においては、企画内容に「+α」として「地元とのふれあい」、「水に関するテーマ性」、「食事」、「体験」などを加えることが好ましい。
- ・水にまつわる伝説なども豊富な地域では、地元の高齢者から話を聞く体験など地域の人とふれあえる内容を加えることで、「水の里」のイメージがなお強くなる。
- ・また、「地元とのふれあい重視」に重点を置いている企画については、地域の人や日常生活との関わりが旅の企画に含まれていること、これらを体験できるコースを重視した方が良い。

◆実施体制など関係団体との関連性について

- ・着地型旅行の場合は、地域の旅行業者、観光協会等の関係団体と連携を図ることが重要である。また、全行程を通じて同じガイドが案内する配慮が好ましい。

②販売戦略

「社団法人全国旅行業協会」（ANTA）及び着地型・体験型観光を扱っている旅行代理店などの着地型旅行のコメントを踏まえ、各地域の関係者が、水源地域や水文化（水の里）を活かした着地型旅行企画を販売する際の参考点を整理した。

◆着地型旅行企画の販売について

- ・着地型旅行企画は、発地側の手配が難しいほどの魅力的な企画内容を作れば、着地型観光として売れるため、地域ならではの体験ができるプログラムの造成が必要である（例えば、南信州の観光業者の企画は、修学旅行の内容として人気が高い）。
- ・地元の旅行会社など、販売ルートの無い小さな旅行会社では、旅行代理店や交通事業者が企画内容を取り扱わない可能性があることから、(株)全旅が旅行会社と JR 東日本の間に入ることで、企画商品が売れる可能性がある。

- ・着地型観光を販売するポイントとして「二泊三日の内容を受け入れられる体制」が必要である。ただし、最初からすべての企画内容を売り出すのは難しいことから、組みの1つ1つを販売し、売れ行きを見ながら1日ごとの販売、二泊三日の全行程で販売するなど、段階を踏んで販売する方法が良い。

③着地型旅行企画を造成する地域への活用方策

「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト 2010」の全応募企画の分析・整理結果等を踏まえ、着地型旅行企画を造成する地域への活用方策を整理した。

◆環境保全の体験活動

- ・水の里の旅は、地域づくりの性質も踏まえると、水の里を観光資源として活用するのみならず、環境保全などの取組を波及させる効果も得られると考えられる。
- ・例えば、竹林の整備体験や、水辺の再生、創造ボランティアなどの環境保全の体験活動を加えることで、より水の里を守り育む意識の醸成を図れると考えられる。



図 2-5 竹林整備体験
(応募番号 53 新竹取物語と“三尺の泉”より)

◆水の里の特産品を活用したヘルスツーリズム

- ・地元食材の活用は多数の企画で提案されているが、併せて「水の里」ならではの特産品の活用したヘルスツーリズムも展開されている。
- ・例えば、水源林のトレッキングに加え、高原野菜などの「水の里の特産品」を提供することにより、ヘルスツーリズムと展開して、水の里の特産品の PR や販売促進に結びつくと考えられる。



図 2-6 トレッキング
(応募番号 23 川治温泉 溪谷と湖上散策の旅より)

④各地域への還元、還流方法

上述でまとめた活用方策については、水源地域や水文化ならではの魅力や特色を活かした着地型旅行企画を造成する各地域への還元、還流を図る必要がある。

各地域への還元・還流方法として、今回まとめた知見、現在選考中の「水の里の旅コンテスト 2011」から得られる知見の内容を併せ、「水の里の旅コンテスト」の募集項目への反映、パンフレットによる受賞者への情報提供、水の里応援プロジェクト HP での情報提供などが考えられる。還元・還流方法の体系図を以下に示す。

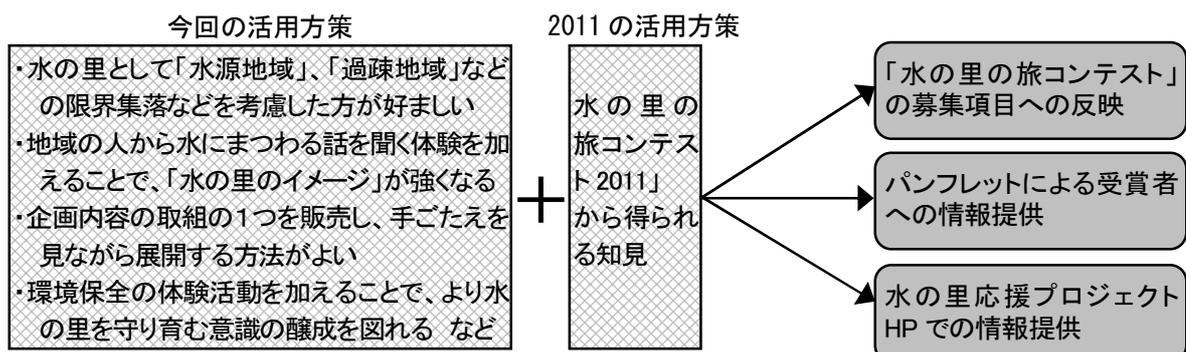


図 2-7 還元・還流方法の体系図

4) 「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト 2011」の応募作品の整理

(1) 「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト 2011」の概要

昨年度実施した「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト 2010」に引き続き、今年度も「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト 2011」と題して「水の里」の旅の応募作品を整理した。

「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト 2011」の概要を以下に示す。実施の内容は昨年度のコンテストの内容をベースとし、日帰旅行賞が追加されている。

- ①主催：国土交通省
- ②協力：(社) 全国旅行業協会、(株) 全旅、(社) 日本観光協会
- ③応募対象：水の里の水（淡水）や水文化に関する観光資源を活用し、水の里の地域関係者により企画されている旅行企画で、水の里の地域活性化等の観点から特に優れたもの。
- ④応募期間：平成 22 年 11 月 4 日～平成 23 年 1 月 14 日
- ⑤各賞 大賞 1 点、優秀賞 3 点程度、特別賞（大賞、優秀賞に準ずるものを 3 点程度）、日帰旅行賞（仮称：宿泊を伴わない旅行企画で優れているもの等を 1～2 点）
- ⑥表彰式 第 17 回日本観光博覧祭 旅フェア 2011（平成 23 年 5 月 27 日～29 日、於 幕張メッセ）において実施。
- ⑦受賞旅行のプロモーションを、(社) 全国旅行業協会（ANTA）、(株) 全旅、(社) 日本観光協会が実施。イベントでの PR 活動、カタログやチラシの作成、ANTA 会員へのプロモーション等を予定。
- ⑧応募件数： 32 件（宿泊）、29 件（日帰り）

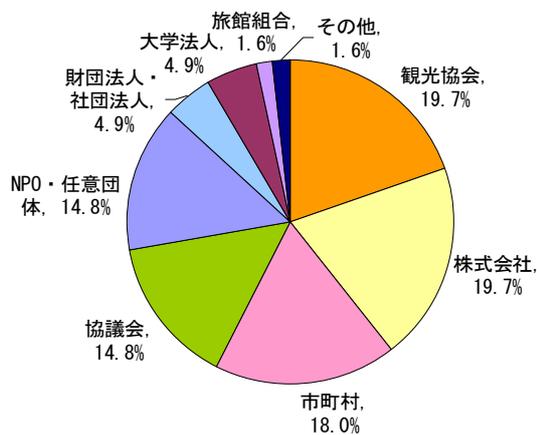


図 2-8：応募主体別

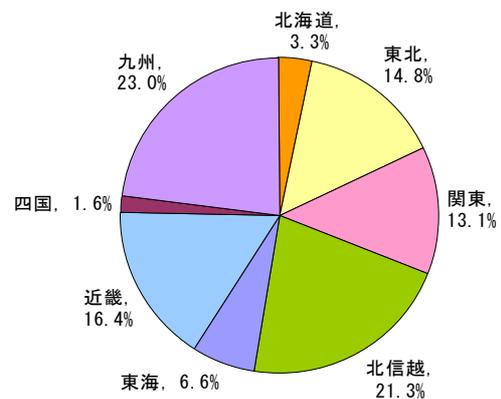


図 2-9：地域別

(2) 「“水のめぐみ”とふれあう水の里の旅コンテスト2011」の応募案内・審査基準

国土交通省土地・水資源局水資源部

「“水のめぐみ”とふれあう水の里の旅コンテスト2011」 応募のご案内

「水の里」と聞いた時、私たちは、いろいろな情景を思い出します。例えば、碧深い森の中に流れるせせらぎ、湧水をたたえた池と茅葺き屋根の農家、冷えた水の中に晒される水菓子、川に飛び込む子どもたち。その多くは、私たちの生活から遠のき忘れられつつある日本の暮らしの姿でした。そして今、多くの人々が、水を大切にしたい暮らしや文化、その水を生み出す自然を大切にしたいと考えます。これは、「水の里」を訪ね、楽しむことから始まると思います。いわば水文化ともいえる「水の里」の魅力は、国内だけでなく外国からの旅行者にとっても関心が高まっています。

国土交通省では、昨年度に引き続き、このような「水の里」の旅の企画を募集することにしました。

このコンテストでは、四季と水の彩り、人とのふれあい、水にまつわる食を楽しみ、遊ぶことなど、「水の里」ならではの魅力を活かした旅の提案をお待ちしています。

1. 主催 国土交通省

2. 協力 (社) 全国旅行業協会、(株) 全旅、(社) 日本観光協会

3. 応募対象

●全国の水源地域や水文化の保全等に取り組む地域（以下、「水の里」という）の水（淡水）や水文化に関する観光資源を活用し、水の里の地域の関係者により企画されている旅行企画で、水の里の地域活性化等の観点から特に優れたもの（企画段階のもの、すでに催行されているものを問いません）を募集します。

●上記の旅行企画の企画や催行等を行っている関係団体（協議会、観光協会、地方公共団体、商工会、NPO、地域の旅行者など）であればご応募いただけます。

●わが町・わが地域は「水の里」であると自認されていれば、ご応募いただけます。

※「水の里」の例としては、以下のようなものがあります。

①全国の水源地域（おおむね河川の上流部に位置する地域）

②水文化の保全に取り組んでいる地域

ここで、水文化とは、「地域の人々が水を上手に活用し、また水を制する中で生み出されてきた有形、無形の文化や伝統」をいいます。

※水文化の例：水に関連する伝統工芸（和紙、染め物など）、各種施設（水車、運河、水路、橋、ダム、堰堤など）、祭事や信仰、農林業（棚田での米づくり、炭焼きなど）、イベント（湖上祭、ダム湖を活用したスポーツ大会など）、民話・伝承、食文化（代々水源にこだわる酒蔵、水にこだわるそば打ちや豆腐作りなど） 等

③水（淡水）に関連する自然環境の保全に取り組んでいる地域

水に関連する自然環境としては、河川、湖、滝、湧水、森林等がひろく該当します。

④全国水の里百選、水源の森百選、名水百選など、水に関連する認定を受けている地域。

4. 応募方法

●別紙「水の里の旅コンテスト2011エントリーシート」（以下、「エントリーシート」という。）により応募していただきます。

※1 エントリーシートのフォーマットによらない応募はすべて無効となります。
エントリーシートについては、以下のページから入手して下さい。

http://www.mlit.go.jp/report/press/water03_hh_000015.html

※2 エントリーシートは電子メールまたは郵送にて受付いたします。

◎応募先メールアドレス： soeya-m2sw@mlit.go.jp

メールの件名を「水の里の旅応募」としてください。着信後、当方より着信確認のメールを返信いたします。2～3日経過しても返信がない場合は、下記問い合わせ先までお電話下さい。

◎郵送の場合： 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2
国土交通省土地・水資源局水資源部水源地域対策課内
水の里の旅応募 係 宛

5. 応募締切 平成23年1月14日（金）必着
（必要に応じ、応募内容の確認等を電話等で行う場合があります。）

6. 審査基準 別紙の審査基準により選考します。

7. 各賞（予定）

大賞	1点
優秀賞	3点程度
特別賞	大賞、優秀賞に準ずるものを3点程度

（なお、大賞、優秀賞、特別賞は、原則宿泊を伴う旅行企画より選考。）
日帰旅行賞（仮称） 宿泊を伴わない旅行企画で優れているものを1～2点

8. 選考・表彰

●観光や地域活性化等に関する有識者にて構成する審査委員会にて各賞を決定し、表彰を行います。

●平成23年5月27（金）～29日（日）に幕張メッセ（千葉県千葉市）にて開催予定の「旅フェア2011」において、表彰式を行う予定です。

9. その他

受賞者及び受賞の対象となった旅行企画（以下、「受賞旅行」という）については、国土交通省によるプレスリリースにより発表します。また、今回のコンテストの協力団体である、(社)全国旅行業協会（ANTA）、(株)全旅、(社)日本観光協会による受賞旅行のプロモーションを行う予定です。イベントでのPR活動、カタログやチラシの作成、ANTA会員へのプロモーション等を予定しています。

【問い合わせ先】 土地・水資源局水資源部水源地域対策課 担当：添谷^{そえや}
電話 03-5253-8111(内線31-323), 03-5253-8392(直通)
FAX 03-5253-1583
e-mail: soeya-m2sw@mlit.go.jp

別紙

**“水のめぐみ”とふれあう水の里の旅コンテスト2011
審査基準**

- (1) 水を育む地域における、水に由来する観光資源を活かした旅行であること。

※「水」のとらえ方は、幅広く考えています。例えば、水とのふれあい、水を育む森とのふれあい、水の文化、水にまつわる産業などです。
- (2) 「水に由来するテーマや目的」が、明確に示されている旅行であること。
- (3) 地域の食材や特産品、自然景観、生活文化、歴史遺産などの観光資源を活かすことで地域活性化等に資する旅行であること。
- (4) 当該地域の関係者、各種団体(地方公共団体・観光協会・NPO等)の協力が見込まれること。
- (5) 実現可能性や安全性の確保等の観点からの問題点がないこと。

以上

(3) 「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2011」のエントリーシート

国土交通省 土地・水資源局 水資源部 水源地域対策課

【水の里の旅コンテスト2011 エントリーシート】

年 月 日

【応募者】 団体名 : _____ 所在地 : _____ TEL/FAX : TEL _____ FAX _____ 担当者 : _____ メールアドレス : _____ 登録旅行業 : 第 _____ 号 (旅行業者の場合のみ、ご記入ください。) (ANTA 会員の場合は、右もご記入ください) 会員登録番号 : _____	国土交通省 土地・水資源局 水資源部 水源地域対策課 受付欄 (記入不要)
---	--

【タイトル/サブタイトル】	【都道府県名】	【観光地域名】
【活かそうとしている「水」の特性・特徴】		
【日程】	1. 日帰り 2. 一泊二日 3. 二泊三日 4. その他 ()	
【旅の目的】		
【実施時期】	春・夏・秋・冬・通年 / (実施時期:)	【催行人員】 名 (最少催行人員: 名)
【原価】	内 訳	
	円 (大人1名)	
【販売価格】	円 (旅行業登録のある場合のみ記入) 大人1名	【子供料金】 有 (円/1名) ・ 無 (旅行業登録のある場合のみ記入)
【旅行企画のセールスポイント】		
【企画協力(後援)機関・団体名/主な役割】		
①	/	⑤
②	/	⑥
③	/	⑦
④	/	⑧
【催行日程】	— 水の里の旅コンテスト2011エントリーシート別紙の通り —	
【観光ポイント】	— 水の里の旅コンテスト2011エントリーシート別紙の通り —	
【特記事項】		

【エントリーシート 別紙】

【 行 程 表 】		
1日目		
2日目		
3日目		
4日目		
【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来など） 】		
【 ポイント1 】	【 ポイント2 】	【 ポイント3 】
観光箇所の画像などを添付	観光箇所の画像などを添付	観光箇所の画像などを添付
【コメント】	【コメント】	【コメント】
【 ポイント4 】	【 ポイント5 】	【 ポイント6 】
観光箇所の画像などを添付	観光箇所の画像などを添付	観光箇所の画像などを添付
【コメント】	【コメント】	【コメント】

(4) 「水のみぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2011」の応募作品

表 2-3 応募作品一覧(1)

番号	所在地分け	日帰り/宿泊	都道府県	市町村	観光地域名	応募者名	タイトル
1	北海道	日帰り	北海道	釧路市	阿寒湖温泉	NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構	マリモを育む阿寒川に身も心も洗われるリパトレッキング
2	北海道	宿泊	北海道	東川町	大雪山国立公園(旭岳地区・天人峡地区)及び東川町内	東川町観光協会	ひがしかわDE水みずしいゆとり旅～「水の町」×「写真の町」にしかできない思い出写真づくり体験ツアー～
3	東北	日帰り	青森県	新郷村	新郷村	新郷村産業建設課商工観光グループ	新郷村ミステリーパワースポット巡りと秋の味覚神秘とロマンの里「新郷村」のパワースポットを歩きパワーをもらいます
4	東北	日帰り	青森県	新郷村	新郷村	新郷村産業建設課商工観光グループ	神秘とロマンの里「新郷村」、春の自然と味覚を満喫。新郷村の春の息吹を感じ木立を渡る風と小鳥のさえずり聞きながら里山はハイキング
5	東北	宿泊	岩手県 秋田県	盛岡市 美郷町	盛岡市美郷町	岩手:おもてなしプラザ運営協議会 秋田:美郷町商工会青年部	岩手と秋田の水の里に歴史のドラマと水の物語を訪ねる旅 ---サケが遡上する川のまち盛岡 & 百清水の湧水群がある美郷町六郷---
6	東北	日帰り	山形県	南陽市	くぐり滝、水林地区	南陽市	出羽の古道 熊野修験の道 水林・くぐり滝コースとれっきんぐ/駅長オススメの小さな旅・駅からハイキング
7	東北	宿泊	山形県	山形市	山形市・山辺町	やまがた広域観光協議会	「城下町やまがた」を潤した里山の湧水と堰めぐり
8	東北	日帰り	宮城県	大和町	登米地域	公立大学法人 宮城大学	『里沼SATONUMA 感謝祭in 長沼』～秋の長沼と周辺の紅葉、ゆったり船を浮かべ、長沼の爽りを味わう水の旅～
9	東北	日帰り	福島県	北塩原村	裏磐梯	裏磐梯観光協会	自由研究お手伝いプラン① / 特定外来生物「ウチダザリガニ ワイルド釣り大会」
10	東北	宿泊	福島県	喜多方市	喜多方市	喜多方観光協会	二つの水物語/紅葉の喜多方に水のルーツを訪ねて
11	東北	宿泊	福島県	福島市	土湯温泉	NPO法人土湯温泉観光まちづくり協議会	磐梯吾妻の魅力発見! ふくしま荒川の源流域の旅
12	関東	日帰り	群馬県	前橋市	板倉町	財団法人群馬県観光国際協会	新緑の群馬の水郷で水面遊覧と川魚料理
13	関東	日帰り	群馬県	前橋市	尾瀬の郷かたしなと吹割の滝	財団法人 群馬県観光国際協会	尾瀬の恵み、かたしな川物語(平成の名水百選に選ばれ「尾瀬の郷片品湧水群」と東洋のナイアガラ「吹割の滝」を案内します)
14	関東	宿泊	群馬県	みなかみ町	みなかみ町月夜野真沢	さなざわ里山だんだんの会	利根川水源地域の棚田で米作り体験～親子で学んで食べてリフレッシュ～
15	関東	宿泊	栃木県	日光市	日光市	日光アクアツーリズム協議会	「日光アクアツーリズム」/ 日光 水の回廊めぐり
16	関東	宿泊	栃木県	日光市	川治温泉	川治温泉旅館組合	川治温泉 春の山菜採り&カヌー散策/春の味覚と湖上散策の旅
17	関東	宿泊	埼玉県	秩父市	奥秩父	NPO法人 森	水の里奥秩父 心の癒しと鍛練場(心と体の健康作り)
18	関東	日帰り	山梨県	甲府市	秩父多摩甲斐国立公園 昇仙峡	昇仙峡観光協会	名水の里昇仙峡
19	関東	宿泊	山梨県	身延町	富士山・本栖湖	NPO法人みの部観光センター	ナイト・カヤッキング in 本栖湖/漆黒の闇夜に、神秘的湖へ漕ぎ出そう
20	北信越	宿泊	新潟県	長岡市	長岡市栃尾地域	栃尾観光協会	水と歴史と織物のまち にいがた栃尾郷物語

表 2-4 応募作品一覧(2)

番号	所在地分け	日帰り/宿泊	都道府県	市町村	観光地域名	応募者名	タイトル
21	北信越	日帰り	新潟県	長岡市	長岡市栃尾地域	有限会社栃尾観光社	にいがた栃尾名水めぐり
22	北信越	宿泊	新潟県	長岡市	長岡市栃尾地域・ 栃堀地区	栃尾施設管理合同会社	刈谷田川のホタル観賞と道院高原自然体験／親子で遊ぼう学ぼう！水と環境
23	北信越	宿泊	富山県	黒部市	富山湾・黒部峡谷・ 越中にいかわ観光 圏(黒部・にいかわ エリア)	黒部市役所商工観光課	水が織りなす奇跡「黒部」～大自然からの贈り物～
24	北信越	宿泊	石川県	小松市	白山市・能美市・小 松市	株式会社富士トラベル石川	タイトル:水の神様 日本三名山「霊峰白山」の名水百選を尋ねる サブタイトル:白山美川伏流水群の歴史・伝統文化・産業・生き物を知る旅
25	北信越	日帰り	石川県	小松市	白山市美川地域	株式会社富士トラベル石川	安産川の湧水とそこに生息する生き物たちの安産を願い観察する旅 霊峰白山の神の水「白山美川伏流水群」に生きる、鮭・トミヨ・コアジサシ
26	北信越	宿泊	長野県	木祖村	木曾川源流の里 木祖村	特定非営利活動法人(NPO 法人) 木曾川・水の始発駅	春の木曾川源流の里体験 『山菜パーティと新緑の天然林』
27	北信越	宿泊	長野県	木祖村	木曾川源流の里 木祖村	特定非営利活動法人(NPO 法人) 木曾川・水の始発駅	夏の木曾川源流の里体験 『大自然の恵みとダム湖でカヌー体験』
28	北信越	宿泊	長野県	松本市	大町市	信州大学-大町市 地域ブ ランド共同研究プロジェクト (信州大学人文学部文化情 報論特論Ⅴ受講者一同)	めぐり！信州大町 うるおいの二日間
29	北信越	宿泊	長野県	安曇野市	安曇野市	安曇野市観光課・観光協会・ 株式会社トラベルブラザ	安曇野水時間 ー景色と食で心とお腹を満たそうー
30	北信越	日帰り	長野県	安曇野市	安曇野市	安曇野市観光課・観光協会・ 株式会社トラベルブラザ	先人の知恵をめぐる ー水を求めて堰を作った先人の知恵と、水が豊富に無かった中で生まれた特産を食すー
31	北信越	日帰り	長野県	安曇野市	安曇野市	安曇野市観光課・観光協会・ 株式会社トラベルブラザ	山麓線の「安曇野」を楽しむ ー山麓線沿いの「安曇野市 穂高温泉郷」三味ー
32	北信越	日帰り	長野県	安曇野市	安曇野市	安曇野市観光課・観光協会・ 株式会社トラベルブラザ	安曇野水時間 ー 安曇野凝縮コース ー
33	東海	日帰り	静岡県	三島市	三島市	三島市地域振興部商工観光課	ふるさとガイドの会と歩く「清流散策ツアー」 ～五感を活かして源兵衛川を歩く～
34	東海	宿泊	愛知県	名古屋市	飛騨・美濃地方	中日本高速道路株式会社	水と自然の四季物語 ～ぎふの水流を辿る～
35	東海	宿泊	岐阜県	下呂市	下呂温泉	NPO法人飛騨小坂200滝	岐阜の宝もの「小坂の滝めぐり」夏、秋 限定企画 「下呂と言えば〇〇温泉と〇〇体験」
36	東海	日帰り	三重県	松阪市	飯高町	道の駅 飯高駅	歴史街道「珍布(めずらし)峠ウォーキング」
37	近畿	日帰り	大阪府	東大阪市	保津川(桂川) 亀岡市～京都市	大阪商業大学経済学部 原 田ゼミナール	～冬の温もり、保津川下り～ ー保津川のめぐみを身体で感じるー
38	近畿	日帰り	京都市	竹田真幡 木町	滋賀県	株式会社ライオンズ旅行企 画	マザーレイク「BIWAKO」の恵みを感じる1日！ ～琵琶湖水系がおりなす魅力に迫る！！～
39	近畿	宿泊	滋賀県	高島市	高島市	湖西夢ふるさとワイワイ倶楽 部実行委員会	新竹取物語と“三尺の泉”／安曇川の恵み！安曇 川源流 プナの森から琵琶湖への里山体感ツアー
40	近畿	日帰り	兵庫県	多可町	多可郡多可町	多可町観光交流協会	多可町魅力まんさい計画バスツアー／～目と舌で 味わう播磨の奥座敷～

表 2-5 応募作品一覧(3)

番号	所在地分け	日帰り／宿泊	都道府県	市町村	観光地域名	応募者名	タイトル
41	近畿	宿泊	兵庫県	加東市	北播磨・加東市周辺	加東市観光協会	加東市水のめぐみ探訪ツアー／加古川舟運の歴史・戦後初のコンクリートダム・長寿の井戸水を巡る
42	近畿	日帰り	兵庫県	加東市	北播磨・加東市周辺	加東市観光協会	加東市 歴史の水・生活の水・健康の水ツアー／加古川舟運の歴史・戦後初のコンクリートダム・長寿の井戸水を巡る
43	四国	日帰り	愛媛県	西予市	西予市野村町	西予市観光協会野村支部	花と緑と豊かな水の美しい朝霧湖(野村ダム)
44	九州	日帰り	福岡県	朝倉市	朝倉市	朝倉市役所 農林商工部ダム対策室	古処山系の水源地を訪ねて、水が育んだ歴史と文化と緑にふれる旅」筑前小京都・秋月散策と寺内ダム、九州一の大河筑後川の水を取り入れた他に類を見ない山田堰、堀川用水、朝倉の水車群たち
45	九州	宿泊	福岡県	朝倉市	朝倉市	朝倉市役所 農林商工部ダム対策室	「古処山系の水源地を訪ねて、九州の小京都・秋月と朝倉の三連水車群、邪馬台国の里めぐりの旅」筑前小京都の秋月散策と他に類を見ない山田堰から堀川用水、三連水車と二連水車、キンピール工場見学から平塚川添遺跡公園をめぐります。
46	九州	宿泊	福岡県	久留米市	朝倉市 久留米市	筑後川まるごと博物館運営委員会	筑紫次郎・筑後川の水の恵みを楽しむ歴史と文化再発見の旅<筑後川は水を主題としたまるごとリバーパーク>
47	九州	宿泊	佐賀県	佐賀市	古湯温泉	古湯・熊の川温泉地活性化運営委員会	蜷観賞会／県都・佐賀市を流れる嘉瀬川の源をたずねて
48	九州	宿泊	佐賀県	佐賀市	富士町	富士町グリーンツーリズム委員会(ふじねっと)	『清流と森林にふれる郷帰りの旅』水の恵みで育まれた郷でリフレッシュ！
49	九州	宿泊	佐賀県	佐賀市	富士町	富士町グリーンツーリズム委員会(ふじねっと)	『清流と森林にふれる郷帰りの旅』水の恵みで育まれた郷と人の豊かさに出会う！
50	九州	日帰り	佐賀県	佐賀市	富士町	富士町グリーンツーリズム委員会(ふじねっと)	『清流と森林にふれる郷帰りの旅』水の恵みで育まれた郷の夏休み！
51	近畿	日帰り	大阪府	大阪市	神埼郡吉野ヶ里町脊振山	ツルカメO&E株式会社	日本茶栽培発祥の地「脊振山霊仙寺跡」を訪ねてー日本茶の歴史を知り、もてなしの心と美味しいお茶、茶づくしの旅ー
52	近畿	日帰り	大阪府	大阪市	神埼郡吉野ヶ里町脊振山	ツルカメO&E株式会社	日本茶発祥の地で心と身体を癒すー一座禅体験、森林ウォーキング、森林セラピーで心と身体の健康づくりー
53	近畿	日帰り	大阪府	大阪市	神埼郡吉野ヶ里町脊振山	ツルカメO&E株式会社	日本茶栽培発祥の地「脊振山霊仙寺跡」ー帯地域にて企業研修ー健康によいお茶を材題にして、もてなしの心を学ぶ、サービス・ホスピタリティ研修ー
54	近畿	日帰り	大阪府	大阪市	神埼郡吉野ヶ里町脊振山	ツルカメO&E株式会社	山茶花・健康ウォーキングー初級からベテランまで、魅力あるコースを歩こうー
55	九州	日帰り	佐賀県	神埼市	神埼市	佐賀県神埼市役所 商工観光課	時空を超えて“神埼水物語”/弥生から近世まで「時」を旅する！
56	九州	宿泊	大分県	大分市	豊後大野市	田原 雅子	名水と伝説の里 大分・豊後大野市へーホテル観賞とエコウォーキングで忘れがたきふるさとを想う旅
57	九州	宿泊	大分県	佐伯市	佐伯市本匠・直川・宇目	佐伯市観光協会	清流の里へのいざないノ水・自然・人にパワーをもらう旅
58	九州	宿泊	宮崎県	小林市	北きりしま地域(小林市、えびの市、高原町、)	北きりしま田舎物語推進協議会	霧島の湧水めぐりと農家民泊田舎物語ツアーー霧島山系が育む“湧水”の魅力と田舎暮らしを満喫する旅ー
59	九州	宿泊	熊本県	南阿蘇村	南阿蘇村	南阿蘇旅案内人協会	南阿蘇 湧水の郷を巡る旅)湧水の里と白川の絶景を歩く親子で遊ぶ水の旅 水の恵みと癒しの旅水の力と経済力
60	九州	宿泊	鹿児島県	垂水市	垂水市猿ヶ城溪谷	垂水市観光地域産業活性化協議会	ココロを洗う浄化リゾート・猿ヶ城溪谷でキャニオニング体験
61	沖縄	日帰り	沖縄県	東村	慶佐次(げさし)	(有)やんばる自然宿	エコツアーで地域を元気にノ地域密着・環境の保全・ホスピタリティ

2-2 コンテスト 2010 の受賞企画のプロモーションの検討

1) コンテスト 2010 の表彰式の支援

コンテスト2010の受賞企画に即したプロモーションのあり方を検討し、旅行業界による実際のプロモーション活動に資するため、プロモーションの一環として発注者が実施予定のコンテスト2010の表彰式の支援を行った。

コンテスト2010の概要及び支援内容を以下に示す。

- ・ 名称：旅フェア2010（第16回日本観光博覧祭）
- ・ 期間：2010年5月28～30日
- ・ 会場：幕張メッセ（千葉県千葉市）
- ・ 来場者数：120,832人
- ・ 主催：旅フェア実行委員会（事務局：(社)日本観光協会）
- ・ 内容：都道府県等の各地域と、旅行会社、交通機関、観光施設、宿泊施設等の観光関連の団体・企業との連携のもと、新しい日本の旅の魅力をアピールする国内でも唯一の「旅の総合見本市」。第16回目となる「旅フェア2010」は千葉県千葉市幕張メッセにおいて開催し、他の大型観光キャンペーン等と連携して国内観光需要の拡大を図った。
- ・ 支援内容：旅フェアの最終日（5月30日）に実施された「水の里の旅コンテスト2010表彰式（(社)日本観光協会、旅フェア事務局の協力により会場内メインステージにて実施（国土交通省主催））」での支援を実施した。

Figure 2-10: Travel Fair 2010 Chara-shi and Stage Program. The figure consists of two main parts: a promotional flyer on the left and a stage program table on the right. The flyer features the event title "旅フェア2010 in 幕張メッセ" and various promotional messages. The stage program table lists activities for three days (5/28, 5/29, 5/30) from 10:00 to 16:00. A red box highlights the "水のめぐみ" award ceremony on 5/30 at 15:00. Below the table, a red box highlights the "水めぐみ" award ceremony details, and another red box highlights the "観音温泉アルカリ源泉体験" event.

時間	5/28 (金)	5/29 (土)	5/30 (日)
10:00			
11:00	中国地域振興PR (中国地域振興促進協議会)	世界の民族衣装と踊りの祭典 ワールドフェスティバルPR (主催)	盛岡さんさ踊り・遠野の講話 華仙神社・富士虎焼 (いわて県庁、いわて県庁、遠野、華仙、富士虎)
12:00	白亜金毛足展本誌 (びやうごの毛足展実行委員会)	餃子ねむ本誌 (主催)	JR日本によるご案内 (日本鉄道旅客サービス)
13:00	空路で近い！「鹿野・熊野」の 観光PRとご当地クイズ (日本観光協会)	旅フェアLIVE・津軽三味線 (主催)	ひこにゃん道とピンコ大会 (ひこにゃん、道志観光)
14:00	JR日本によるご案内 (日本鉄道旅客サービス)	佐藤隆子演奏と手踊り あやめ祭りPR in Messe (主催)	箱根賞儀(せらり勢)による箱根をどり (箱根)
15:00	三木浜松とクイズで探る！ 旅名産物の魅力が 盛り込まれたクイズ (旅名産物振興協議会)	高千穂の女神祭 (高千穂)	行くたび、新しい、青森 (青森デスティネーションキャンペーン推進委員会)
16:00	えんごせきかわ 大したもんねまつりと方言クイズ (主催)	「阿南(あんな)なる島、アミミ」 歌舞伎座 電気屋敷コンサート (電気屋敷)	日本JC「地域活性化から創る」PR (日本観光協会)
	伝説探訪 (伝説探訪)	千葉競馬・物産PR 見えます！千葉の威力 (主催)	大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」 受賞前夜祭の地場産 (主催)
	あっぱれしんみず!! あっぱれクイズ!! (主催)	織り (主催)	「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅 コンテスト2010 (国土交通省)
	旅フェアLIVE・津軽三味線 (主催)	知って、笑って、豪華！旅商品ゲット！ 高速道路クイズ教養問答 (主催)	観音温泉アルカリ源泉体験 (観音温泉 アルカリ源泉事業)
	旅の楽楽団 (ライブ・ダンス)・旅人あそび	龍宮本誌 日光原産・TWSトム&ミムショー (主催)	佐倉大鼓賞 (主催)
	旅フェアLIVE・津軽三味線 (主催)	オリーブが分かれば 世界が見えてくる (主催)	旅フェアグラフィック ～フィアール
	旅フェアLIVE・津軽三味線 (主催)	土佐・龍馬で読むPR (主催)	

大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」
滋賀県ゆかりの地紹介
(大河ドラマ「江」滋賀県推進協議会)

「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅
コンテスト2010
(国土交通省)

観音温泉アルカリ源泉体験
(観音温泉 アルカリ源泉事業)

図2-10：旅フェア2010のチラシとステージプログラム



図 2-11：旅フェア 2010 展示風景



図 2-12：旅フェア 2010 表彰式及び大賞受賞者の青森通りズム（株）によるプレゼン風景

2) 水の里の旅コンテスト2010で実施されたプロモーション

水の里の旅コンテスト2010の応募企画を対象とした、関連団体から観光業界へ実施されたプロモーションの内容を整理した。整理結果を以下に示す。

①商品カタログの作成

水の里の旅コンテスト2010の全応募企画（68件）の内容を掲載した“商品カタログ”が作成された（5000部）



図 2-13：“商品カタログ”の作成
(ANTA、(株)全旅)

②関連団体へのPR

ANTA会員約5,700社、全都道府県観光協会等へのPR（月刊「ANTA」、観光庁メールマガジン等への掲載等）が行なわれた。

③第7回国内観光活性化フォーラム

（4月8日、青森市）でのプロモーション

ANTA会員約5,700社、全都道府県観光協会等へのPR（月刊「ANTA」、観光庁メールマガジン等への掲載等）が行なわれた。



図 2-14：国内観光活性化フォーラムでのPRコーナー（ANTA、(株)全旅）

④水の里の旅コンテスト2010表彰式

国土交通省が主催し、(社)日本観光協会、旅フェア事務局の協力により会場内メインステージにて実施された。

⑤大賞受賞旅行企画のプレゼンテーション

メインステージにおいて、大賞受賞者の青森通リズム(株)による、プレゼンテーションが実施された。



図 2-15：旅フェア2010での表彰式
(主催：国土交通省、協力：旅フェア実行委員会、(社)日本観光協会)

⑥商品チラシの作成・配布

(社)全国旅行業協会、(株)全旅により、水の里の旅コンテスト2010の受賞企画のプロモーション用商品チラシを約1万部作成し配布された。

⑦水の里の旅コンテスト2010受賞企画のPRブースの 出展

(社)全国旅行業協会、(株)全旅による、水の里の旅コンテスト2010受賞旅行企画のPRを目的としたブースを出展。約7,000名の入場者がブースに
来場された。



図 2-16：大賞受賞旅行のPR（主催：国土交通省、協力：旅フェア実行委員会、(社)日本観光協会）



図 2-17：“商品チラシ”の作成・配布 (ANTA、(株)全旅)



図 2-18：PR ブースの会展 (ANTA、(株)全旅)

3) 報道等の状況

水の里の旅コンテスト2010の応募企画の受賞作品を対象に、新聞等の報道内容を整理した。整理結果を以下に示す。

地方紙を中心に10件（伊勢新聞、中日新聞、東奥日報、読売新聞（青森版）、岐阜新聞、山形新聞、福島民報、大分合同新聞、トラベルニュース等）の新聞に報道された。

また、ANTAニュース等に掲載しANTA会員（約5700社）へPRされている。



図 2-19：地方紙への報道内容

4) 「水の里の旅」受賞企画の詳細内容（行程や広報内容、広報先など）の把握

コンテスト 2010 の受賞企画のプロモーションを検討するにあたり、水の里の旅のプロモーションのあり方を検討するに一環として、「水の里の旅」受賞企画の動向（実施状況や販売促進など）を把握するヒアリングを実施した。

ヒアリング内容は以下の通りである。以下にヒアリングで得られた内容の抜粋を掲載し、各団体のヒアリングの詳細については別に示す。

◆受賞作品への主なヒアリング項目

- ①受賞企画の現在の実施状況、今後の予定など
- ②受賞企画の販売促進や広報について

◆受賞作品へのヒアリング方法

担当者にメール及び電話にてヒアリングを実施

◆ヒアリング対象（受賞 9 作品）

- ・大賞 1 作品：青森通リズム(株)
- ・優秀賞 3 作品：七ヶ宿町観光協会／吉野川食のツーリズム会議／(社)日田市観光協会
- ・特別賞 5 作品：NPO法人 最上川リバーツーリズムネットワーク
福島県大沼郡金山町／水郷佐原観光協会
(財)いびがわ 生命(いのち)の水と森の活動センター／(株)旅行屋

①受賞企画の現在の実施状況、今後の予定など

…受賞企画をすでに実施している団体は 4 団体であり、すべての企画において、実施及び実施に向けた検討が行われている。

○すでに受賞企画を実施している：4 団体

- ・七ヶ宿町観光協会：JR 旅市を通じ、1 回実施（8 月 27 日・28 日：初めての利用客（2 名参加））。
- ・NPO 法人最上川リバーツーリズムネットワーク：2008 年度から実施中で今年度も実施。旅市にも一部取り入れられている。
- ・(株)旅行屋：2010 年度に 5 回実施予定
- ・(社)日田市観光協会：日田市内外の「日田ファンサークル」のメンバーを募って、11 月 14 日～15 日に実施：12 名参加

○販売・モニターツアーを実施検討中（一部実施）：3 団体

- ・吉野川 食のツーリズム 会議：秋頃にテストマーケティングを行う見込みで調整
- ・福島県金山町：8 月に J R 東日本のツアーの一部で短縮した企画を提供
- ・(財)いびがわ 生命(いのち)の水と森の活動センター：モニターツアーを 11 月 6 日～7 日に実施：4 名参加

○企画検討中：2 団体

- ・青森通リズム(株)：新幹線ダイヤが 9 月頃に決定するため、ダイヤ決定後時間の組み入れを行う。具体的な販売は来年 6 月から
- ・水郷佐原観光協会：観光船：利根川遊覧の延長線上で「ぐるっと水郷舟遊び」の実施に向け、4 月から段取りを図っていたが、地元舟運業者との連携において今一進めることが出来ず、現在に至っている。

②：受賞企画の販売促進の動向

…広報先（売り込み先）は多様に分かれる。受賞結果の広報については、地元自治体や観光協会などでPRされている。実際の企画販売については、着地型観光を販売する旅行代理店への売り込みなどに広報されている。

○着地型観光を販売する旅行代理店への売り込み：3団体

- ・青森通りズム(株)：旅市の担当者のつながりから、「水の里の旅」の企画をJR東日本に売り込む予定。
- ・七ヶ宿町観光協会：JR東日本の「旅市」に企画を持ち込んでいる（商品化されている）。
- ・福島県大沼郡金山町：企画内容の一部を、JR東日本のイベント列車で商品化されている。

○観光協会を中心とした販売促進：2団体

- ・(社)日田市観光協会：観光協会から日田市内外の「日田ファンサークル」へ企画を広報。
- ・(財)いびがわ 生命(いのち)の水と森の活動センター：地元の観光協会へ企画を広報。

○地元自治体との連携による広報：2団体

- ・福島県大沼郡金山町：自治体庁舎内で企画を広報。
- ・(財)いびがわ 生命(いのち)の水と森の活動センター：地元の自治体へ受賞企画を広報

○県外の旅行会社との連携：1団体

- ・(株)旅行屋：県外の旅行会社との連携を模索

○企画会社のネットワークを通じた広報：1団体

- ・吉野川 食のツーリズム 会議：「食のツーリズム会議」を構成するメンバーのネットワークで、業界団体、専門媒体を通じて企画を広報（具体名は非公開）。

○メディアとホームページなど広報媒体を活用：1団体

- ・水郷佐原観光協会：観光協会HPによる情報提供、メディア（新聞社）などを活用した広報

上述の内容を踏まえた、動向整理結果は以下の通りである。今後は、「水の里の旅」の魅力を広く伝達していくこと、旅行代理店との連携を図るなど、受賞企画の販売促進をバックアップしていくことが求められる。

- ・受賞企画の実施や販売促進を行う努力がみられる。
- ・受賞団体の各自のコネクションを通して販売促進しているが、大手の旅行代理店などとの関係は弱く、販売促進や広報に苦慮がみられる。
- ・「水の里の旅コンテスト」の受賞企画というネームバリューが、まだ販売促進に貢献しているわけではない。
- ・このような障害は、「水の里の旅」が消費者や旅行代理店に広く認知されていないこと、販売促進の方法が確立していないことによることが大きい。また、着地型旅行商品に共通する問題も影響している（次ページ参照）

【参考：着地型旅行商品に共通する問題】

◆共通する課題

- ・着地型旅行商品の情報が消費者や大手旅行会社に広く伝達されていない。
- ・着地型商品の特徴と旅行代理店の流通構造がミスマッチ
- ・天候等により内容変更がある、商品の品質が一定でない
- ・都市圏消費者に対応した旅行内容や受け入れ態勢ができていない(プライバシーの確保、洒落た配慮、清潔感なども含めて)。

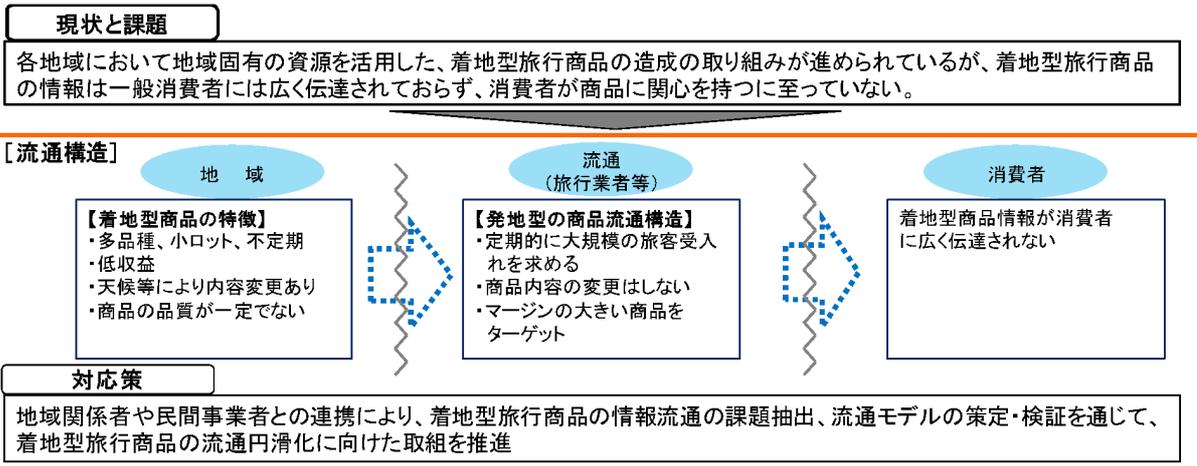


図 2-20：着地型旅行商品の流通促進の体系図（出典：平成 23 年度 観光庁関係予算概算要求概要）

◆「水のめぐみ」とふれあう水の里の旅コンテスト2010」各賞受賞者 ヒアリング状況

・主なヒアリング項目

ヒアリング(1)：受賞企画の現在の実施状況、今後の予定など

ヒアリング(2)：受賞企画の販売促進や広報について

◆大賞（1企画）

賞	大賞	観光地域	青森県十和田市、七戸町
受賞者	青森通リズム(株)		
企画タイトル	未知の国の 水と遊び 水を知る旅 八甲田山の四季が創る青森の水の恵		
ヒアリング(1)※	<ul style="list-style-type: none"> ・企画書の通り、旅行の行程が、八戸へ in して、七戸・十和田駅の out となっている。 ・新幹線ダイヤが未定であり、この9月頃に判るため、再度時間の組入れが必要となる(定期観光バスの利用もあり、新幹線ダイヤが判り次第に再度時間の組入れを行う)。 ・新幹線青森開業を見据えた企画のため、本格的な販売と実施は、明年春からとなる(来年6月～)。 		
ヒアリング(2)※	<ul style="list-style-type: none"> ・現在 JR 東日本の着地型旅行「旅市」の八戸コースのオペレーションを担当しており、新幹線青森開業時に販売可能となる十和田・上北地域広域の企画も提案致している。 ・よって、「水の里の旅」の企画も JR 東日本に売り込む所存でいる(今月中に JR 盛岡支社へ) ・現在、七戸町役場観光課と、上記を含め協議している。 ・広報内容としては、「水の里」水の恵による(運動・飲料・温泉・食材・癒し)などを捉えたヘルスツアー的な部分人工河川の掘削と十和田市の歴史と景観を考えている。 		
その他	<p>(添谷様への返答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開業の年であり、ダイヤが発表あり次第に、本格的に動くこととなりますが現在、上北地域県民局の力添えで、受賞しましたコース、内容等を観光関連に携わる皆様方や市町村の幹部の方々へのプレゼンテーションを行っております。 ・既に、県民局主催の「上北元気結集協議会」や「あらたな青森の旅・十和田湖広域観光協議会」などへも参加、出席を求められ、水の里の旅を地域として売り出す事を進めています。 ・尚、6/22は「上北地域温泉ネットワーク推進事業」の会議に出席、29日は、「上北地域連携推進会議」での副市町村長さん達との「新幹線全線開業に向けた取り組み」でプレゼンと意見交換が求められています。 ・このように、地域では、「どのようにすればいいのか」と言う事に苦慮しているように思っております。官民一体とならなければ、地域の活性化はありえないと思ひ微力ではありますが、今回の受賞を機に地域観光の有り方や、販売手法についてのお手伝いをしているのが現状です。 ・以上、近況報告ですが、今後ともご支援のほどを宜しくお願い申し上げます。 		

◆優秀賞（3企画）

賞	特別賞	観光地域	宮城県七ヶ宿町
受賞者	七ヶ宿町観光協会		
企画タイトル	水守の郷・七ヶ宿/あなたの中に眠っている「山・水・木々物語」ここにあります。		
ヒアリング(1)※	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 東日本の「旅市」を通じて企画を販売している（提案企画は2泊3日であるが、販売企画は1泊2日）。詳細はその他参照。 ・ 企画販売については、前任の渡辺様（水の里の旅エントリー時の担当）が JR の担当に企画を持ち込んでいる。ただし、企画を持ち込み先までは不明である。 ・ 8月27日、28日に、JR 東日本の「旅市」を通じて、初めて企画を実施した（女性2名：7月から商品を販売（JR 東日本 HP より））。 ・ 企画は9月まで販売し、10月以降の販売は未定である。 		
ヒアリング(2)※	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 東日本の「旅市」に企画を持ち込んでいる（商品化）。 ・ JR 東日本以外の旅行代理店への広報は特に行っている。 		
その他	<p>◆ JR 東日本の旅市「七ヶ宿 源流ツーリズム」</p> <p>内容：宮城県七ヶ宿の自然の中で、薪割り&炭焼き体験。そして水源地の土壌改良や水質浄化のための「置き炭」を行い、森や湖へ感謝します。</p> <p>http://travel.eki-net.biz/jrnetsbyu/servlet/CommodityDetailServlet?cid=00234015</p>		

賞	特別賞	観光地域	吉野川源流域（徳島県、高知県）
受賞者	吉野川 食のツーリズム 会議		
企画タイトル	吉野川の源流・食の探訪・青空キッチン		
ヒアリング(1)※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画内容を基に、具体的なプログラムの材料を発掘し続けている段階である。 ・ 食をテーマとしているため、秋頃にテストマーケティングを行う見込みで調整。 ・ いわゆる「販売」については、継続可能な業務体制の組み方を検討中である。 		
ヒアリング(2)※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報については、例えば、ターゲットは首都圏のシェフと行ったように特定の層を狙った旅行商品としているため、一般的な媒体の利用は予定していない。 ・ 実際に展開する段階では、「食のツーリズム会議」を構成するメンバーのネットワークで業界団体、専門媒体を通じた広報を考えている。 <p>◆業界団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に首都圏のイタリアン・フレンチのシェフの所属している料理研究会である。シェフたちは、修行などの関係で人脈関係を生涯大切にしていることから、具体的な固有名詞は控えさせていただきます。 <p>◆専門媒体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「食」を題材とした専門誌が数多く出版されております。それぞれに固有の読者層を持っている。私たちは、これらの編集社などとネットワークを持っており、適宜、情報発信していく予定で努力しているところである。こちらも具体的な媒体名は控えさせていただきます。 		
その他			

賞	特別賞	観光地域	大分県日田市
受賞者	(社)日田市観光協会		
企画タイトル	「水と森の恵みに感謝」五感で感じる 秋の水郷（すいきょう）ツアー		
ヒアリング(1)※	・内容を多少変更し、日田市内外の「日田ファンサークル」のメンバーを募って、11月に実施する予定。		
ヒアリング(2)※	・チラシを作成し「日田ファンサークル」のメンバーに知らせる。		
その他			

◆特別賞（5企画）

賞	特別賞	観光地域	最上川流域（山形県長井市、白鷹町、朝日町、大江町）
受賞者	NPO 法人最上川リバーツーリズムネットワーク		
企画タイトル	～アルク最上川～（歩く早さで感じる旅） 最上川流域の景観・まち・文化・歴史を活用した観光推進事業		
ヒアリング(1)※	・特別賞を受賞した「～アルク最上川～」を企画した加藤美幸さんが退職して転職なされたのでこの企画は正直、動かないでそのままです。宙ぶらりんと言う形であるが、実施に向けた取組みが行なわれている。（添谷さん談）		
ヒアリング(2)※			
その他	・最上川沿いで遊んだりできる場所、例えば（フットパス・カヌー乗り場・水辺の楽校など…）のマップを制作して配布できたらなあと考えている。 ・NPOなので正直なところ予算もないので県などの助成金などを活用していきたいのですが助成金を頂くにも、申請申込をして審査を通らないといけないので、どうなるかは分からない。		

賞	特別賞	観光地域	福島県金山町
受賞者	福島県金山町		
企画タイトル	水のふるさと「奥会津かねやま」の旅 多彩な水、その「かたち」と「ちから」を訪ねて		
ヒアリング(1)※	・進捗状況等については、旅行会社等からのお話はまだいただいていないが、今後PRをしていきたいと考えている ・ただ、企画の内容の一部をJRのイベント列車で商品として（日帰り）あつかったいただいた。		
ヒアリング(2)※	・広報等については、町の広報誌に掲載されている。 ・また、町から福島県内の新聞社（2社）に情報を投げ込み、福島民報新聞（6月10日）に掲載されている。 ・また、いただいた賞状及びコンテストの内容については、庁舎1階に掲示し、ひろく来庁者に周知している。		
その他			

賞	特別賞	観光地域	千葉県香取市
受賞者	水郷佐原観光協会		
企画タイトル	ぐるっと水郷舟遊び 悠々満喫 さっぱ舟でゆく水郷佐原		
ヒアリング(1)※	<p><既存の企画></p> <ul style="list-style-type: none"> 本企画は、当地の観光滞在期間の増幅を狙いとし、舟運で新規航路の開発を行い、広域的な観光をはかり、目的を達成しようとして取組んだものである。 われわれは、当地香取市佐原に今年3月にオープンした国交省所管、香取市管理受託の「水の郷さわら」の栈橋を利用し、利根川遊覧という新規航路を構築して今回受賞した企画と連携して発展を図ろうとこの4月より取組みました。 新規航路「利根川遊覧（「水の郷さわら」の栈橋を起点に、「さっぱ舟」により、水郷大橋～横利根閘門～水の郷 一周約 35 分のコース）」については、「水の郷」のオープン効果も手伝って順調なすべりだしをみました。4月 443 人、5月 1515 人、6月 823 人の乗船者がありました。しかし、7月以降は急激なダウンを呈している。 <p><既存企画を活かした水の里の旅></p> <ul style="list-style-type: none"> この延長線上で「ぐるっと水郷舟遊び」を進め、6月の「あやめまつり」などは、本航路で結んで更なる観光資産の活用と発展を目指し、4月から段取りを図っていた。 しかし、地元舟運業者との連携において今一進めることが出来ず、それがブレーキとなり、現在に至っています。 今後は、地元の業者の理解を得るべく、粘り強く取組むとともに、周辺地元産業（いちじく生産者、NPO が主催する「コスモスまつり」と農産物販売など）との連携を強化し、早期に実践すべく努力しているところである。 		
ヒアリング(2)※	<ul style="list-style-type: none"> PRについては、昨年より今回の水の里の旅（さっぱ舟）と、現在運行している利根川遊覧事業を一つのパンフレットに収め、観光協会のホームページに掲載するとともに、パンフレットの配布を行っている。 掲載しているホームページ名は「水郷佐原観光協会」である。また、メディアは、昨年より地元の「千葉日報」「読売新聞」などに呼びかけている。 		
その他	本格的な実践に向けて走り出しましたが、途中地元の協力を得る段階で一部停滞しており具体的な報告が出来ない状況におかれています。一方的なこちらの都合で申し訳ありませんが、いましばらく時間をいただきたいと思っております。		

賞	特別賞	観光地域	岐阜県揖斐川町
受賞者	(財)いびがわ生命の 水と森の活動センター		
企画タイトル	日本一の徳山ダムと上流の豊かな自然にふれよう／揖斐川源流水源地探索会		
ヒアリング(1)※	<ul style="list-style-type: none"> 現在、PR活動中 モニターツアーを11月6日（土）、7日（日）に実施した（参加者4名） 今後はモニターツアーで得られた内容を踏まえて、企画内容を見直し販売していく予定である。 		
ヒアリング(2)※	<p>【受賞企画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆広報先：揖斐川町、揖斐川町観光協会 ◆内容・手段：受賞企画を元にPRし、必要に応じて宿泊日数、体験メニューなどを変更する予定 <p>【モニターツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆広報先：関連自治体、鉄道駅（養老鉄道）、観光協会など ◆内容・手段：チラシ5,000枚作成し、上記の広報先に設置した。自前HP、関連機関のHPにて情報を発信 		
その他			

賞	特別賞	観光地域	三重県伊勢市、多気町
受賞者	(株)旅行屋		
企画タイトル	地域の応援に支えられる五桂池 「高校生レストラン “まごの店”」		
ヒアリング(1)※	<p>◆まごの店：はある程度ブランド化できているため、口コミだけでもある程度実績が作れている。</p> <p>リンク：http://jr2uat.net/mago/mago.htm</p> <p>紹介があっても、施設の性格上、土日営業と空きが無い為予約が取りづらいのがネックである。</p> <p><実績及び予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月：「調理体験と地旅メニュー」で22名参加。 ・4月：「会席料理を楽しむ会」18名参加。 ・7月：「藤方婦人会、調理体験と食事会」19名参加予定。 ・8月：「調理体験と地旅メニュー」 30名予定。 ・9月：「名張商工会議所婦人部」40名予定。 などなど、となっている。 <p>この程度では全くビジネスとしては成り立たないので、「まごの店」村林先生に、「まごの店」の食事をセットした、宿泊プランをご提案申し上げております。</p> <p>◆「まごの店」の食事をセットした、宿泊プラン (例えば、金曜日（三重県の宿泊地：湯の山・榊原・青山・鳥羽・賢島・志摩地区の旅館、ホテルさん）の宿泊と土曜日の「まごの店」の昼食をつけたセットプランの販売。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日なら、当日の昼食と土曜日泊まり、土曜日の泊まりと日曜日の昼食が組めますが、旅館側としては当然平日の泊りが喜ばれると考えられる。 ・こういったプランを自社のHPで販売、勿論宿泊先のHPにもリンクしてそこからの誘導も考えられる。 ・こちらで企画料+旅館の手数料もダブルで入ってくるのでビジネスとしてはおいしいかと思えます。 		
ヒアリング(2)※	<p>◆広報先 県外の業者を介した県外企業の地元の旅行会社</p> <p>◆広報手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あとはもうひたすらいろんな場で、こうした面白い取り組み等の発信 ・何せお金も人も居ない中小企業なので、とにかく県外の業者さんが来たらこんなことやっていますので、地元の旅行会社さんにアピールしてよとお願いしてるような段階である。 ・逆に何か良いアイデア、手法がありましたらお教えいただきたい。 		
その他			

5) 旅行代理店へのプロモーションの試行

上述の「水の里の旅」受賞企画の詳細内容（行程や広報内容、広報先など）の整理結果を踏まえ、ツアー実施に必要なプロモーションの後方支援のあり方を検討する。

整理結果では、以下のような問題点が挙げられていることから、今後は、「水の里の旅」の魅力を広く伝達していくこと、旅行代理店との連携を図るなど、受賞企画の販売促進をバックアップしていくことが求められる。

- ・受賞団体の各自のコネクションを通して販売促進しているが、大手の旅行代理店などとの関係は弱く、販売促進や広報に苦慮がみられる。
- ・「水の里の旅コンテスト」の受賞企画というネームバリューが、まだ販売促進に貢献しているわけではない。
- ・このような障害は、「水の里の旅」が消費者や旅行代理店に広く認知されていないこと、販売促進の方法が確立していないことによることが大きい。また、着地型旅行商品に共通する問題も影響している。

(1) 販売促進を目的としたヒアリングの概要

受賞企画の販売促進として、必要なプロモーションの後方支援のあり方を検討するため「社団法人全国旅行業協会」(ANTA) 及び着地型・体験型観光を扱っている旅行代理店に対し、「水の里の旅」の受賞作品の販売促進を目的としたヒアリングを実施した。

(株) JTB、東日本旅客鉄道(株)の旅行代理店に対しては、「水の里の旅」で大賞を受賞した青森通りズム(株)及び青森県上北地域県民局の方にも同行いただき、企画内容のプレゼンを実施し、直接旅行代理店等へのプロモーションを実施した。

表 2-3：ヒアリングの日程及び対象

No	日時	対象	取組
1	8月17日 (火) 10:00~	(社) 全国旅行業協会 (ANTA) 菊池 調査部長	インターネットを通じて観光関連事業者(旅行業者、宿泊・観光・運輸施設等)の業務拡大を支援する B to B サイト「ANTA NET」を運営している。
2	9月16日 (木) 15:00~	(株) JTB 旅行事業本部 地域交流ビジネス推進室 小泉氏・浅野氏	全国各地の旅先の観光情報や、日帰り温泉・体験プログラムなど、旅先での過ごし方を提案する予約・販売サイト「JTB っておき観光情報ナビ」を運営している。
3	9月17日 (金) 16:00~	東日本旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 営業部 太田次長・西副課長	東日本エリアの着地型観光プログラムを「旅市」ブランドで販売している。「旅市」は、ガイドの案内で風土や文化に触れ郷土食を味わうことなどをメインにした地元発着の商品で、全旅の「地旅」と商品コンセプトは似通っている。



図 2-21：各ヒアリング先の取組HP

(2) 販売促進を目的としたヒアリング結果

ヒアリング結果の抜粋を以下に示し、各団体の詳細なヒアリング結果を次頁に示す。ヒアリング結果では、大きく①水の里の旅のプロモーション、②水の里の旅の販売戦略の2項目の内容を抜粋した。

ヒアリング結果から、今後、受賞企画の販売促進を行なう際は、「水の里応援プロジェクト」専用のHPでの広報、旅行企画の一部分の売り込み、旅行代理店との連携を図るなどのバックアップが求められる。

①水の里の旅のプロモーションについて

- ・ ホームページにより水の里の現状や水の里の旅を報提供するのが好ましい。
- ・ 専用ホームページの作成や、水の里の旅を一般客や関連企業・団体等に周知するための、「水の里の旅コンテスト」の継続的な実施が有効であると考えられる。
- ・ 発地側の旅行代理店や JR 等の交通事業者などへの売り込みや連携の可能性を模索することが効果的と考えられる。
- ・ JTБ のような大手旅行代理店でも着地型商品の情報を無償で掲載できるため、既存のコンテンツサービスを利用したプロモーションの推進が考えられる。

②水の里の旅の販売戦略について

- ・ 「水の里の旅コンテスト」の受賞企画のネームバリューがまだ販売促進に貢献しているわけではなく、着地型旅行商品に共通する問題も多い。
- ・ 大手旅行代理店との連携の際は、企画内容のコンテンツをまとめて販売するのではなく、代表的なコンテンツ1つを販売し、評判を確認する方法も考えられる。そして、しながら徐々に企画を売り出す方法が効果的である。
- ・ 鉄道などの交通事業者や大手旅行代理店とタイアップした商品販売が効果的であることから、関連企業との連携を図るなど、受賞企画の販売促進をバックアップすることが求められる。

(3) ヒアリング結果（詳細）

①（社）全国旅行業協会（ANTA）

ヒアリング対象者：菊池 調査部長

<着地型観光の販売について>

- ・着地型観光の商品を B to B での売り込むのは難しい。旅行会社がリスク（旅程補償、民泊した際の苦情など）を負うのが難しい。
- ・リスクとして、発地型の企画では、雨天の場合に体験の取組から美術館などの変更が可能であるが、着地型の企画の場合、農業体験が雨で中止になった際には代替や補償が発生する。宣伝費をかけてまでリスクを伴う着地型観光を行なうのは難しい。
- ・地域側では都市圏消費者のニーズが分かっていなく、受け入れ態勢ができていない状況である。例えば、NPO 団体が作る着地型観光では、民泊において食事後皿洗いまでさせる内容もあり、プライバシー確保、洒落た配慮などが実施できていない。
- ・着地型観光として、イタリアでアクアツーリズムが実施されているが、これはワイン作りや農業体験を実施させているが、宿泊は公共機関の施設であることからプライベートが保たれている。
- ・「地旅」の検証が出来てないので、売れている企画がどのようなものかを検証する必要がある。着地型旅行については、消費者の視点からのマーケティングが出来ていない現状である。
- ・大手旅行代理店も着地型観光の商品まで手を出すのが難しい。どのようにしたら商品なるかの判断が難しい。また、着地型商品の要素を自らの発地型商品の中に組み込んでしまう可能性がある。
- ・地域での着地型旅行は地元の人への参加が多い。これは、旅行業者の団体が実施していることにより、地元発の日帰り旅行を着地型旅行として捉えている傾向がある。
- ・着地型旅行といっても多くは近隣住民対象の地域の発地型旅行になっている。観光圏で実施している着地型旅行についても、地域発地型が散見される。
- ・ANTA NET は B to B のため、作った企画を旅行会社が買わない。企画しているものをそのまま販売するのは嫌がる。理由として、着地型観光は単価が低い上、リベートはもっと低いからである。ただし、着地型の企画内容が良いものであれば売れるため、着地のブランドやプログラムがないと難しい（飯山、南信州、屋久島のように）。
- ・着地型観光については、発地で手に入らない企画内容であれば、着地型観光として売れる。南信州の観光業者は、修学旅行の内容として人気が高い。

<着地型観光のプロモーションについて>

- ・JTB など大手旅行代理店においても、すぐに企画内容の販売は難しい。地域がブランド化されていない箇所のプロモーションを行なわなければならない。
- ・プロモーションの方法として、水の里独自のサイトを立ち上げる方法がよい。一つの事例として、・都市と農山漁村の共生・対流推進会議が立ち上げているグリーンツーリズムの専用サイトは参考になる。

- ・ ANTA NET（観光商品流通システムで、インターネットを通じて観光関連事業者（旅行業者、宿泊・観光・運輸施設等）の業務拡大を支援するサイト）は B to B（企業間取引）サイトなので、販売状況は好ましくない。
- ・ 「じゃらん」などの旅行雑誌や「女性誌」などのPR誌とのタイアップしたプロモーションも効果的であると考えられる。
- ・ 都会の人が「水の里の旅」に何を求めているのかを把握する必要がある。そのため、水の里の旅の継続、何パターンか企画を作り、体験メニューの販売（若い人、家族づれなど）を行い、データを集める必要がある。
- ・ 着地型観光を販売する旅行会社に対し、地域へのノウハウや成功事例の提供を行なうのが好ましい。

<旅行代理店との連携について>

- ・ 地元の旅行会社で、販売ルートを持っていない小さな旅行会社では、旅行代理店や交通事業者が相手してくれない可能性がある。（株）全旅が旅行会社と JR 東日本の間に入れば商品が売れる可能性がある（JRの旅市）。
- ・ JR とのタイアップとして、主要駅での水の体験ツアーを企画するのは面白いのでは。JR 東日本は旅行部門を持っているため、着地型観光には非常に強みであり、心強い。

<教育旅行の販売について>

- ・ 教育旅行は大手旅行代理店が担っており、地元会社が参画するのは難しい。
- ・ 教育旅行としての水の里の切り口は面白い。

②(株) J T B 旅行事業本部地域交流ビジネス推進室 ヒアリング結果

ヒアリング対象者：小泉氏・浅野氏

青森ツーリズムの前澤部長が受賞企画案の説明を実施。説明後、J T B の取組について説明いただいた後に企画案及び水の里の旅のプロモーションや、具体的な企画の販売方法についてヒアリングを行なった。

<現在の旅行動向について>

- ・今回の企画内容は、滞在型を主流にした内容であるが、現在の利用客のニーズは、回遊性の人気が高い。
- ・旅行の途中で、駅やホテルで2～3時間余った際、短時間で回れるコースやオススメを良く聞かれる。このような空き時間に対応可能な商品も必要である。
- ・J T B の観光情報ナビで着地型体験プログラムについて販売を実施しているが、思ったよりも売上は芳しくない。

<販売戦略について>

- ・今回の企画内容については二泊三日の旅行内容のため、最初からすべての企画内容を売り出すのは難しいと考えられる。
- ・企画の内容は、1つ1つの取組みとしての魅力も高いことから、まずは、1つ1つの取組みとして販売し、次に1日ごとの販売、売れ出してきたら二泊三日の全行程で販売するなど、段階を踏んで販売する方法が良いと考えられる。
- ・着地型旅行の販売戦略において、商品の企画内容を4段階で評価し、評価別の販売戦略を立てるのが好ましいと考えられる。4段階の評価内容は以下の通りである。
 - 1：旅行のプログラムから、地域に行ってみたい
…非常にハードルが高い内容であり、このような商品を企画できれば、着地型旅行としては成功である。
 - 2：その地域に行ったら、必ず体験できる企画
…地域ならではの体験が出来る内容であり、より企画内容に磨きをかけられる内容である。現在J T B が一番力を入れている部分である。
 - 3：その地域に行ったら、体験できるかもしれない
…2番の必ず体験できる企画までレベルを上げるため、企画の数を設けることが重要である。
 - 4：行っても行かない、無駄なプログラム
…販売を見送る。
- ・旅行を企画して実際に体験する行程として、10日前が旅行予約のピークであり、4日前が体験予約のピークである。また、前日でも体験メニューの予約の可能性も考えられるので、前日対応としてはホテルとタイアップして企画を推進する方法が考えられる。

<情報発信・プロモーションについて>

- ・J T B のパンフレットへの掲載は、お金をいただいても許可が下りづらい状況である。また、
- ・また、J T B 独自のHPでは情報掲載の審査の基準が高いことからすぐに情報を掲載するのは難しい。
- ・現在、「水の里の旅」を発信するHPが存在しないことなので、J T B の取組において、まず

は簡単に企画内容を紹介可能な方法について提案する。

- 観光情報の掲載ツールとして、「るるぶ.com」では、各地の情報を自分で入力可能である。月に何千万ビューと閲覧数は非常に多いサイトである。
- 地域の着地型観光商品の情報の掲載ツールとして、「観光情報ナビ」は、商品内容の情報公開や HP のリンク掲載を無償で掲載可能である。閲覧数は月 50 万ビューである。ただし、通常より大きいトピックスに掲載する際は、30 万～40 万円程度の費用負担が発生する。
- 旅行の販売で重要なのは情報発信である。そのため、「るるぶ.com」では各地の情報提供を目的とし、「観光情報ナビ」では、リンクを掲載して地域の着地型観光商品の販売を目的としてツールを提供している。水の里の旅などの着地型観光商品の販売については、情報の発信が必要であることから、まずは旅行代理店にプロモーションをしてもらうことが必要であると考えられる。
- 「観光情報ナビ」では、無償で情報を掲載可能なため、まずは利用していただきたい。

③. 東日本旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 営業部 ヒアリング結果

ヒアリング対象者：太田次長・西副課長

青森ツーリズムの前澤部長が受賞企画案の説明を実施。説明後、JRの取組について説明いただいた後に企画案及び水の里の旅のプロモーションについてヒアリングを行なった。

<現在の旅行動向について（旅市の販売）>

- ・旅行のニーズが従来の団体旅行から少数旅行に変化しているため、旅行内容も少量多品数にシフトしている。
- ・JR東日本で販売している「旅市」については、発売当初は1シーズン200名の利用者であった。販売以降、徐々に利用者が増加し、今年の夏は1シーズン2,000人まで利用者が増加した。発売当初（1年前）の売上は散々であったが、現在は手ごたえを感じている。
- ・「旅市」も当時は手探りの状況からの開発であった。着地型観光を販売するポイントとして「二泊三日の内容を受け入れられる体制」が必要である。
- ・今回提案された内容は非常に素晴らしいため、販売について協力していきたい。販売は来年の5月頃を想定されているとのことであるが、旅市の商品開発は5ヶ月くらい前までに企画をまとめている。
- ・現在、JR東日本では、全旅とタイアップし、ANTA会員が企画した着地型旅行商品にJR東日本の鉄道と宿をセットし全旅「地旅」ブランドして売り出す取組を行っている。第2回地旅大賞優秀賞の「いわて北さんりく暮らしと文化を訪ねて」の三陸鉄道とタイアップして、商品化を目指している段階である。
- ・ANTA会員が企画した着地型旅行商品とJRとの連携の仕組みが出来ていない。

<旅行企画のプロモーションについて>

- ・水の里の旅のプロモーションについては、例えば旅市で企画内容を実施し、観光客に参加してもらい口コミで広める方法が効果的と考えられる。口コミで広めてもらうことで、認知度が広がっていくと考えられる。

<着地型観光の取組について>

- ・旅市のポイントは、「価格」、「地産地消」、「受入体制（連絡、受入）」である。また、一人でも対応可能、連泊など、参加人数や宿泊日数を臨機応変に対応し、旅行の内容で温泉などの癒しや地元での生活や文化とのふれあいが体験できる内容が重要である。また、旅市では、ガイドを手配し地元を案内する取組を展開している。
- ・旅市などの着地型観光旅行のポイントとして、各地の地元の交通機関を利用する（地元鉄道、バス、タクシー）ことが使命である。
- ・JRでは「駅からハイキング」として事前に申し込みが必要なハイキングのイベントを実施している。この取組は事前に申込が必要であるが、旅行先で数時間時間が余った際の対応としては、「駅からハイキング」の取組を発展させ、駅から数時間で楽しめる旅行企画があると好ましいのでは。企画を検討・整備する際は、駅長と地域住民が地域内を散策し、コースを設定して販売することにより、地域の活性化を図れると考えられる。
- ・JRでは「駅から観タクン」という駅前タクシー乗り場のタクシーを利用し、周辺の観光地を気軽に回れるタクシー観光プランを販売している。着地側で、観光地を気軽に回れるタクシー観光プランを作って、JRに売り込む方法も考えられる。

6) 「水の里の旅」受賞者が企画しているツアーの動向調査

コンテスト 2010 の受賞企画のプロモーションを検討するにあたり、「水の里の旅」受賞者が企画しているツアーに参加し、動向調査を実施した。

動向調査を実施するにあたり、上述のコンテスト 2010 の受賞企画の詳細内容（行程や広報内容、広報先など）の把握結果から、「(財)いびがわ生命の水と森の活動センター」が実施するモニターツアー「日本一の徳山ダムと上流の豊かな自然にふれよう」に参加した。

モニターツアーの応募内容を以下に示し、次ページ以降に参加報告を掲載する。

ぎふ森林づくりサポートセンター - うらプロダク 1/2 ページ

ぎふ森林づくりサポートセンター
http://gifu-mori.net/

EVENT イベント案内・募集案内

2010年09月24日
国土交通省主催 水の里旅コンテスト2010「特別賞」受賞企画「モニターツアー」参加者募集

日本一の徳山ダムと上流の豊かな自然にふれませんか？

主旨
国土交通省主催「水のみくみとふれあう 水の里旅コンテスト2010」で、(財)いびがわ生命の水と森の活動センターが提供した旅企画が「特別賞」を受賞しました。そこで、この受賞企画のモニターツアーを実施して、参加者が「日本一の徳山ダムと上流の豊かな自然にふれよう」と、この地域でしかできない体験活動を通じて、意見・提案をいただけるように、岐阜県水産地域ビジョンで目指している、地域の人々と連携した「水産地域の活性化の推進」の定着を図るものとします。

募集企画の概要
清流の水脈といわれる揖斐川源流「徳山ダム」上流は、98%以上が広葉樹に覆われ、イヌリン、クマタなど貴重な動植物が生息する豊かな自然が保たれています。このすばらしい自然や景観にふれていただき、多くの重要性や水産地域の自然環境保全の理解を深めていただくことを目的としています。

日時 平成22年11月6日(土)10:30～7日(日)15:20 (1泊2日)

参加費 8,500円(1泊2日3食・体験料+バス移動料一切含む)

募集人員 20名(定員になり次第締切)

宿泊場所 ふじはし星の家 (TEL:FAX:0585-52-2077)

日程

【11月6日(土)】
10:30 集合(岐阜道庁 岐阜バスで移動)
11:20 オアシスセンター(水と森の学習館)
11:40 昼食(弁当持参)
12:40 徳山ダムについての学習・見学
14:00 水産地域の機関「シロアサ」/周辺天然林見学
15:30 藤原城・西美濃プラネタリウム、藤原歴史民俗資料館見学
17:30 自由時間(夕食・入浴など)
18:00 星空観察(西美濃天文台)
20:00 自由時間

【11月7日(日)】
9:00 すがはし作り体験(間伐材活用)
10:30 沢アザミのおきやり体験(水産地域の食文化体験)
12:00 昼食
13:00 パドーナメント作り体験(ワセミ・ヤマセミの飾り)
14:30 ふじはし星の家出発
15:20 養老鉄道「揖斐駅」解散

持ち物 6日の昼弁当、お茶、野外活動ができる服装(長袖・長ズボン、帽子、運動靴)、着替え、飲み物、嗜好品、タオル、雨具など

参加申込み方法
「参加申込書」に必要事項をお書きの上、10月22日(金)までFAX(0585-52-2166)又はE-mail(inochimomizutori@octa.jp)でお申込みください。(定員になり次第締切)

募集案内チラシ&参加申込書

http://gifu-mori.net/modules/xeblog/?action=xeblog_detail&id=60log_id=978 2010/10/15

HPによる告知画面

国土交通省主催 水の里旅コンテスト2010 特別賞 企画 モニターツアー参加者募集

日本一の徳山ダムと上流の豊かな自然にふれよう

実施期日 11月6日(土)～7日(日)

費用 1泊2日 8,500円 (1泊2日体験料等)

募集人員 20名

宿泊場所 ふじはし星の家 (岐阜県揖斐郡川種見639 TEL・FAX:0585-52-2077)

主催 (財)いびがわ生命の水と森の活動センター
企画 ぎふ森林づくりサポートセンター
協賛 揖斐川町観光推進課

【11月7日(日)】

集合・バス移動	7:00	出発
シロアサの学習	7:30	朝食・荷物整理
	9:00	すがはし作り体験
お昼食・見学	10:30	「沢アザミのおきやり体験」
パドーナ作り	12:00	昼食
シネマプラム	13:00	「パドーナメント作り体験」
藤原見学	14:30	水産道の学習館出発
入浴などの自由時間	15:30	揖斐駅解散 (解散時:解散)

※11月7日(日) 10:30に解散駅に到着します。
解散に際しては15:03に人数取りに到着します。

参加できる施設 (藤原・歴史館)、動物園、観音寺、郷土館、郷土資料館、シロアサの学習館、オアシスセンター

TEL: 0585-52-2077 FAX: 0585-52-2166
Mail: inochimomizutori@octa.jp

参加申込書 (申込み期限: 10/22定員になり次第締切)

住所		参加申込書	
氏名	性別	氏名	性別
ふりがな	氏名	ふりがな	氏名
可	不可	可	不可

※個人情報は必要事項以外には使用しません。
返信メールで申し込まれる方は、上記申込書に項目をmailで送っていただくようお願いいたします。

モニターツアーのチラシ

国土交通省主催 水の里旅コンテスト 2010「特別賞」受賞企画
“モニターツアー「日本一の徳山ダムと上流の豊かな自然にふれよう」／(財)いびがわ生命の水と森
の活動センター” 参加報告

◆期 日：平成 22 年 11 月 6 日(土)10：30～7 日(日)15：20(1泊2日)

◆参加費：8,500 円(1泊2日3食・体験料・バス移動料一切含む)

◆宿 泊：ふじはし星の家 (TEL&FAX:0585-52-2077)

◆参加人数：4 名(募集人員：20 名(定員になり次第締切))

- ・田辺氏 (60 歳後半(定年退職後)の男性)：愛知県瀬戸市より参加
- ・伊藤姉妹 (20～30 代の姉妹)：愛知県名古屋市より参加
- ・中央開発 成瀬：埼玉県より参加

◆参加スタッフ：4 名(常時)

◆日 程

【11 月 6 日(土)】

- 10:30 養老鉄道「揖斐駅」集合バスで移動
- 11:20 オリエンテーション(水と森の学習館) 終了後昼食(持参弁当)
- 12:40 徳山ダムについての学習・見学
- 14:00 水源地の横綱「シロビア杉」・周辺天然林見学
- 15:30 藤橋城・西美濃プラネタリウム、藤橋歴史民俗資料館見学
- 17:30 自由時間(夕食・入浴など)
- 19:00 星空観察(西美濃天文台)

【11 月 7 日(日)】

- 9:00 マイはし作り体験(間伐材活用)
- 10:30 沢アザミのおやき作り体験(水源地城の食文化体験)
- 12:00 昼 食
- 13:00 バードオーナメント作り体験(カワセミ・ヤマセミの飾り)
- 14:30 ふじはし星の家出発
- 15:20 養老鉄道「揖斐駅」解散

【実施風景(1日目)】



【実施風景(2日目)】



【モニターツアーのまとめ】

- ・主催である（財）いびがわ 生命の水と森の活動センターは、揖斐川水源地域ビジョンの行動計画を踏まえ、「水と森の学習館」を活動拠点として、様々な体験活動を学習館中心に実施している（体験学習で昨年は14,000人受け入れている）。
- ・今まで実施してきた体験学習を組み入れて「水の里の旅」を組み立てられていると考えられるため、主に体験学習中心としての旅行として組み立てられている。ただし、観光や体験学習の内容において、具体的な水源地域の保全や活用の内容までは紹介されていない。
- ・水に由来する観光資源としては、揖斐川上流の徳山ダム、上流の水源林（ブナ林、古木のしろびや杉など）、沢あざみなどである。
- ・地域活性化の観点では、地域の食材（沢あざみ）によるおやき作り、ダム建設により移転された茅葺き民家を活用した藤橋城歴史民俗資料館など、地域の生活文化・歴史遺産などの観光資源が活用されている。
- ・地域の関係者、各種団体の協力としては、（財）いびがわ 生命の水と森の活動センター、揖斐川町との連携が図れており、旅行内容、宿泊手配などは様々な体験学習を実施していることから、スムーズな対応が図られていた。今後は、企画内容の拡大を図るための各団体との連携が考えられている。
- ・企画内容の広報については、（財）いびがわ 生命の水と森の活動センターによるチラシ作成、HPによる情報公開が行なわれた。ただし、担当者が広報すべきツールを迷われていたこと、広報の時期が企画申込日の1ヶ月前になったことから、今回の参加者が少なかった要因と考えられる。

【総合考察】

- ・ツアーの内容は非常に満足できる内容であり、改めて水源地域・水の里の大切さを把握することができたが、体験内容に特化しすぎている感があった。もう少し水源地の大切さ、水の里を何故守らなければならないかを旅行の中に入れても面白いと感じた。
- ・また、体験活動として間伐財を利用した「マイ箸づくり」や「バードオーナメント作り」は、水源地域の保全を訴求するために好ましいと思うが、間伐作業など実際に水源地を直接的に守る体験を組み入れた方が面白いと感じた。
- ・他の参加者からも挙げられていたが、広報の方法は改善の余地があると考えられる。今回の広報は締切り1ヶ月前にHPによる告知やチラシ配布（地元自治体、最寄りの鉄道駅、観光協会）を実施されている。その結果、今回の参加者は流域外の愛知県からであり（チラシの入手場所は、名古屋市と徳山ダム）、近隣自治体や最寄りの鉄道駅利用者は参加されていない。これは、近隣自治体の住民は徳山ダムを身近に感じている人が多く、宿泊を伴うモニターツアーには芦を運ばない可能性が考えられる。
- ・一方、近隣の都市域の市民（名古屋市、岐阜市など）は、徳山ダムから距離が離れており、源流に訪れる機会が少ないことから、本モニターツアーのような源流の水の里に触れ合える企画の情報を提供することで、興味のある人が参加する機会が増えると考えられる。
- ・また、HPによる告知は自前のHPや岐阜県のぎふ森林づくりサポートセンターなどを関連団体から告知はされているが、より全国に情報を発信したい要望を持たれていた。この要望については、現在業務で検討中の「水の里の旅」専用ホームページにて、コンテスト応募作品一覧のコンテンツを作成し、販売サイトへのリンクやモニターツアーなどの情報提供を図っていきたい。

◆見学内容（詳細）

【11月6日(土)】

①10:30 養老鉄道「揖斐駅」集合バスで移動

- ・参加者（4名）とスタッフを乗せ、オリエンテーション先である「水と森の学習館」へ揖斐川町のバスで移動。
- ・バスの中では、スタッフから今回の水の里の旅モニターツアーの簡単な紹介が行われた（詳細な内容については、別途オリエンテーションにて紹介）。

②11:20 オリエンテーション(水と森の学習館)

- ・配布資料を元にモニターツアーの企画内容及び行程について紹介。
- ・モニターツアーを紹介する祭、「水の里の旅コンテスト 2010」で特別賞を受賞した企画内容であることを紹介。ただし、水の里の旅の目的や、コンテストの内容の紹介は行われなかった。
- ・主催者である「(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター」は、徳山ダム上流域を核とする揖斐川水源地域の豊かな自然環境の保全と水源地域の活性化を図ることを目的とし、ダム管理と整合を図りながら保全活動、環境教育、調査研究、拠点施設の管理などを行う目的で、平成 20 年 4 月 1 日に設立。設立後、事務所を「水と森の学習館」に置き、様々な体験活動を学習館中心に実施している。「水の森の学習館」はダム建設後に沈んだ学校をイメージして設立している。
- ・活動内容は、主に揖斐川水源地域ビジョンの中核プロジェクトである①水源地の保全活動②環境教育③研究フィールドの提供④情報発信⑤施設管理である。
- ・体験学習で昨年は 14,000 人受け入れている。今回のモニターツアーのような宿泊企画を実施するのは始めてである。今後、このようなツアーを本格的に実施したいため、今回のモニターツアーを実施した。今後の企画実施に向けて参考にさせていただきたいので、忌憚の無い意見を伺いたい。



オリエンテーション会場（水と森の学習館）



特別賞 賞状



徳山ダムの紹介及び活動紹介のパネル

③11:40 昼食(持参弁当)

- ・ 昼食時に今回のモニターツアー参加者に参加の理由を確認した。
 - ・ 田辺氏：モニターツアー実施の数週間前に、揖斐川町主催のツアーで徳山ダムを訪れており、その際に今回のモニターツアーの企画を知った。揖斐川町主催のツアーで徳山ダムの景色に引かれたこと、今回のモニターツアーの内容に関心を持ったことから参加した。揖斐川町主催のツアーに参加したメンバーにも呼びかけたが、都合が合わなかったため今回は一人での参加となった。他のメンバーもツアー内容に興味を持っている。
 - ・ 伊藤姉妹(姉)：モニターツアーの参加理由は、「マイはし作り体験」や「バードオーナメント作り体験」などの手作り体験に興味を持ったことから参加した。企画を知ったのは、たまたま愛知県の金山駅に設置されていたチラシを発見したからである。このようなツアーに参加するポイントは、ツアーの内容と金額との兼ね合いである。
 - ・ 「水の里の旅」の内容については把握していない。コンテスト受賞作品のチラシを見せたところ、このようなツアーの内容について興味はあるものの、情報をどこで入手したらよいか分からないとの返答であった。コンテスト受賞作品のチラシで「水の里の旅」を知ったことから、今後は自分から情報を収集したいとのことであった。

④12:40 徳山ダムについての学習・見学(ダム展望台、ダム堤体など)

- ・ ダムの機能を紹介。
- ・ ダム堤体からダム上流部の水源地域を紹介。徳山ダム上流部は、98%が広葉樹(ブナなど)である。今後は、上流域の植林を100%広葉樹にしていきたい。
- ・ この後見学する上流部について、ダムから見学する内容になっている。
- ・ 紅葉の時期や観光放流が行なわれる時期は多数の観光客が訪れる(ツアー実施日も多くの観光客が訪れていた)。
- ・ ダム管理所及び広報施設は見学していない。

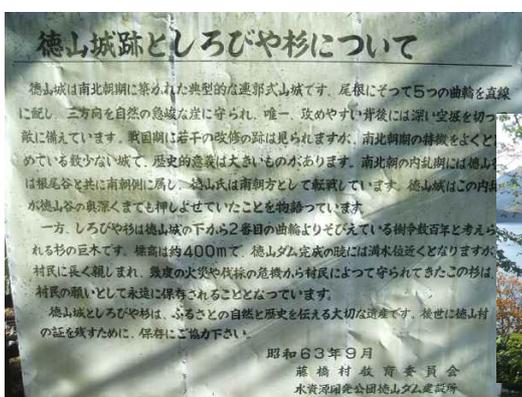


徳山ダム見学風景

⑤14:00 水源地の横綱「シロビヤ杉」・周辺天然林見学

1：しろびや杉見学（普段は見学コースを封鎖：今回はツアーのため特別に見学）

- ・ダム建設により水没した旧本郷地区に存在するしろびや杉を見学。
- ・周辺には、旧徳山村民が故郷をしのぶ本郷望郷広場があり、近くには樹齢 500 年を数える巨木しろびや杉が存在する。この杉は、南北朝時代（1336 年ごろ）に築城されたと伝えられる「徳山城」跡の尾根にそびえ、樹齢約 500 年、根元幹周り 7.6m、樹高 30m の巨木である。
- ・これだけの巨木に育ったのは、斜面上からの新鮮な水の供給があり、陽当たりがよく、周囲の尾根や木に囲まれた比較的台風被害を受けにくい「生育環境」にあると考えられる。
- ・徳山ダム建造時に村が沈むことなる際、山の中腹にあったしろびや杉と城址は、徳山村と水資源機構が協定を結び永久保存されることになり、「しろびや杉の崩落防止に関する工事」で整備されることとなった。このような水源地域を守るための取組みなどをツアーの中で紹介している。



しろびや杉と徳山城跡の紹介

しろびや杉からのダム湖風景

2：冠山見学（徳山ダム最上流部の展望台より見学）

- ・展望台より冠山を見学。
- ・冠山峠から見ると烏帽子（えぼし）の形に見えるので冠山と言われている。
- ・登山道入口から頂上まで約 90 分程度であり、登山の人気スポットである（今回は見学のみ）。

3：徳山会館見学（徳山ダム最上流部の展望台より見学）

- ・旧徳山村民の故郷に集える場所として建てられた施設。旧徳山村の様子について紹介している展示コーナーが設置されている。宿泊施設、飲食施設が整備されている。
- ・施設内を 45 分程度見学。
- ・施設内では、ダム建設により沈んだ旧徳山村の紹介（パネル、写真など）、ダムの仕組みが分かる展示施設などにより、水源地域の大切さを訴求している（多くの見学者が訪れていた）。